

## 評価結果概要表

### 【評価実施概要】

事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作字上浜143-25		
電話番号	0820-74-1122	事業所番号	3577100385
法人名	有限会社 ひまわり		

訪問調査日	平成 20 年 7 月 25 日	評価確定日	平成 20 年 11 月 25 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

### 【情報提供票より】

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	16 人	常勤	12 人 非常勤 4 人 (常勤換算 11.2 人)

#### (2) 建物概要

建物構造	木造(在来工法) 造り	
	2 階建ての	~ 1 階部分

#### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 33,000 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
その他の費用	月額 12,000 円			
	内訳 水道光熱費			

#### (4) 利用者の概要 ( 月 日現在 )

利用者数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
	要介護 1	7	要介護 4	0	
	要介護 2	9	要介護 5	0	
	要介護 3	2	要支援 2	0	
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 増本クリニック・おげんきクリニック・嶋元医院・野村医院・光輝病院・柳井病院 歯科
---------	--

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)  
法人代表者は、管理者や介護職員の意見をよく聴き、看護師、栄養士、介護職員の代替の確保や、外出用の車の配慮など、サービスの向上に積極的に取り組んでおられます。職員も意欲を持って資格取得にも積極的に取り組んでおられ、生き生きと働き、利用者にも明るく接しておられます。地域向けの広報誌を作成し地域の自治会に配布するなど、グループホームや認知症についての普及啓発の努力をされています。

(特徴的な取組等)  
日々の暮らしの中で日常的に外出を支援し、利用者の気分転換を図られています。また、花見などの外出の時はホームで利用者と一緒に弁当を作って持って行き、家で過ごしていた時と同じように弁当を持って出かけるという楽しみづくりが行われています。個人記録とは別に、看護交換記録ノートで看護師との連携を密にされ、日々のケアに活かしています。

### 【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)  
栄養士・看護師を採用するなどして、栄養バランスの管理、薬の管理や副作用について把握が行われ、また、地域向けのホームだよりの作成を行ない改善をされています。

(今回の自己評価の取組状況)  
全職員が、評価の意義を理解し、職員全員で話し合い、自己評価し、サービスの質の向上に努めています。あらゆる面で反省材料を感じ取り、全職員が初心に帰る場となるいいチャンスと捉えて取り組んでいます。

(運営推進会議の取組状況)  
社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、消防署員、消防団員、地域住民代表、家族代表などのメンバーで2ヶ月に1回開催しています。ホームからの報告や、参加者からの意見や要望を受けて、サービスの質の向上に活かしています。

(家族との連携状況)  
家族の訪問は多く、訪問時に日々の様子を伝えていきます。また、2ヶ月に1回ホームだよりを発行し、職員の異動なども合わせて報告しています。個別にメールで様子を知らせています。

(地域との連携状況)  
地域の小学校との交流、文化祭の参加や日々の散歩、近所からの差し入れ等があるなど、馴染みの関係が出来ています。また、地域の人も参加して避難訓練を行うなど、地域との連携が良く取れるようになってきています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>職員全員で話し合い、「みんなで幸せにならしましょう」という理念を作り上げ、地域の中でその人らしく暮らし続ける支援をしているが、地域密着型サービスとして明文化がされていない。</p>	<p>・地域密着型サービスとしての理念の明文化</p>
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>管理者と職員は、合同定期ミーティングで理念を共有し、日々のサービス提供場面において実現に向けたケアに取り組んでいる。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>日常的に散歩でのあいさつ、回覧板を回したり、近くの小学校の運動会等の行事に参加をしたり、町主催の文化祭にも参加をしている。地域の方からの差し入れもある。また、地域向けホームだよりを年2回発行し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>全職員が評価の意義について理解し、評価の結果についても運営者も含めて検討され、栄養士の採用、薬についての改善、地域向けホームだよりの発行など、できることから順次具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>運営推進会議で、ホームから評価の報告と参加者からの質問・意見・要望を受け、地域向けホームだよりを年2回発行したり、職員による散髪は辞めて、事業者ボランティアや地域に出かけて行うなど、意見を受けてサービスに活かしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>町担当者と運営推進会議以外に行き来する機会をつくり、前回の評価結果についても相談し、助言を得て、課題解決とサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族の面会時、家族向けホームだより、個別メールなどで、事業所での生活状況、金銭の立て替え状況、職員の異動などを報告している。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	相談や苦情の受付窓口担当者名、外部機関を明示し、個別面談や運営推進会議に家族が参加し、相談や苦情を伝える機会を設けている。第三者委員は検討中であり選任していない。	・第三者委員の選任
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の生活の流れに応じて職員配置をしている。職員の急な休みの時も、非常勤職員等で柔軟に対応しているが、さらに増員も予定している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的に各ユニットの職員は固定して、利用者、家族と信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応できるように配慮している。やむを得ない異動、離職時には利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修の機会を全員に確保している。研修後は、レポートを提出し、ミーティングで報告、職員が閲覧も出来るようにし、共通理解と、介護技術の向上に努めている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他のグループホームと交流し、サービスの向上に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>本人や家族とコミュニケーションをとり、ホームを見学してもらい安心して利用開始に結びつけている。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>利用者のもっている力が発揮できるように日々の声かけやケアを行い、畑仕事、食事の支度、散歩、買い物、通院など、一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にし、支えあう関係づくりに取り組んでいる。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の生活の中で一人ひとりの思いを聞き取り、意向の把握が困難な場合は、家族からの情報も得て職員間で話し合い、本人本位に検討している。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の面会時に、利用者の様子や状態を報告し、要望を聞きながら、毎月1回全職員でケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>3ヶ月に一度モニタリングと介護計画見直しを行っている。状況が変化した場合は、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>通院の送迎付き添い、馴染みの理美容院への送迎付き添い、図書館などへの希望外出、自宅付近へドライブに行き知人との交流など、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医で医療が受けられるように支援している。日頃から、かかりつけ医や協力医との連携も良く取れ、適切な医療が受けられるように支援している。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合について、主治医、看護師、家族と話し合い、情報を共有するようにしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の自尊心を傷つけるような言葉かけや、職員側の視点での強制がないよう、一人ひとりの尊厳を大切にした対応に取り組まれている。個人情報の取り扱いも職員に周知徹底をしている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日々、その時々で利用者に合わせた支援をし、その人らしい暮らしができるよう、一人ひとりの思いやペースを大切に希望に添って柔軟に支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や後片付けを行い、職員も同じテーブルで同じ食事を食べながら、楽しい雰囲気になるように支援している。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望を聞きながら、毎日、午前・午後のどちらでも入浴が出来るように支援している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や趣味嗜好などを本人、家族から把握し、調理、後片付け、テレビ鑑賞、利用者同士での交流など、楽しみや生きがいにつながるような場面づくりに配慮しながら支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	事業所の中だけで過ごさず、散歩、買い物、ドライブなど希望に添って、できるだけ外出機会が多くなるよう支援をしている。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束について、ホーム内で研修を行い、全員で正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関が居間などからの死角にあり、安全のため鍵をかけているが、利用者の様子や希望に合わせてその都度外出に対応している。	・鍵をかけない工夫の検討
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	インシデント、アクシデント報告書を作成し、再発防止、今後の対応方法を職員全員で検討し、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時マニュアルにより手順化し、対応ができるようにしている。消防署の協力を得て、全職員が定期的に応急手当、救急救命法を受講している。	
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力と地域の方の参加も得て、消防、避難訓練を実施している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	個人ファイルに、薬についての情報を綴じている。服薬は、職員が手渡し確認を行っている。必要な情報は記録に残し、医師、看護師にフィードバックしている。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	口腔ケアの必要性を職員全員が理解し、一人ひとりに合わせた声かけや見守りで歯磨き、保管、清掃、消毒の支援を行っている	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士によるカロリー計算が行われ、食事量を毎食記録し把握している。水分補給は、一人ひとりに合わせて食事、おやつの他にも確保するようにしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症マニュアルを作成し、手洗い、うがいの励行、各所の消毒、インフルエンザの予防接種、まな板、食器の清潔保持など、全職員で感染症予防対策に取り組んでいる。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	ホーム内の温度や明るさや音は、適度に調節され、畳の間や(冬場は掘り炬燵として利用)ソファー、窓辺には季節の花が飾られ、音楽を流したり工夫がされ、台所の音や匂いと五感に働きかけるさまざまな刺激を取り入れ、居心地良く過ごせる共用空間の工夫がされている。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や生活用品、写真などが飾られ、本人が居心地良く、落ち着いて過ごせるよう工夫がされている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホームひまわり		
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-25		
電話番号	TEL 0820-74-1122	FAX 0820-74-1123	
開設年月日	平成 15 年 2 月 17 日		

## 【サービスの特徴】

利用者の方々の尊厳を大切に、心のもったサービスを提供します。その人らしさを尊重し、日々幸せに、そして穏やかに過ごせるよう支援します。「みんなで幸せになりましょう」を理念に掲げ目標にしています。

## 【実施ユニットの概要】 (6月15日現在)

ユニットの名称	グループホームひまわり 東棟		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護 1	3名	要介護 4
	要介護 2	5名	要介護 5
	要介護 3	1名	要支援 2
年齢構成	平均 86.6 歳	最低 79 歳	最高 93 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員が評価項目をそれぞれ分担し検討、評価する。ミーティングで話し合い、今後の課題や改善点を明確なものとする。
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <u>地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	・職員全員参加の合同定期ミーティングで話し合い、地域密着型サービスの意義と役割を理解、確認し独自の理念をつくりあげている。	
2 (2)	○ <u>理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	・ミーティングに於いても理念を共有し、実現に向けケアの統一を図り取り組んでいる。	
3	○ <u>運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	・運営理念は玄関に掲示して、ミーティングに於いても職員と目標を共有している。	
4	○ <u>運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	・毎月全職員参加のミーティングでは建設的意見の交換をし、相互に意識啓発をしサービスの質の向上に向け取り組んでいる。	
5	○ <u>家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	・運営推進会議やご家族の来訪時など、折に触れわかりやすく説明したり、ホームだよりも活用している。また6ヶ月に一度地域向けホームだよりも発行し、地域に回覧にして理解してもらえよう取り組んでいる。	○ ・利用者のプライバシーに配慮しながら地域にホームの理解と役割を伝えるために地域向けホームだよりも発行している。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <u>隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。	・日常的に散歩などに出かけ、近隣の人たちと気軽に挨拶を交わしたり、話しをして顔なじみになっている。また子供連れで回覧板を持ってきてくれることもあり、近所の人とふれあう機会が多い。	
7 (3)	○ <u>地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	・近くの小学校の運動会の案内により、入居者も地域の一員として参加している。町主催の文化祭にも出かけ地元の人との交流がある。	○ ・今後もできるだけ町内会の活動に積極的に参加していきたい。
8	○ <u>事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	・地域の高齢者の暮らしに役立つような取り組みはまだ実施には至ってはいない。今後職員の状況や機会があれば考慮に入れたい。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	○ <b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	・評価の意義についてはミーティングで周知理解し、外部評価の結果はミーティングで報告し、改善に向けて実践につなげる努力をしている。	○ ・前回の改善課題についてはミーティングで議題に取り上げ、できることから改善し、実践している。課題は残っているが、次につなげていけるよう取り組みたい。
10 (5)	○ <b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	・運営推進会議では、ホームからの報告とともに参加者から質問、意見、要望を受け、ケアサービスに活かしている。	○ ・運営推進会議では、会議を活性化するために毎回テーマを設けており、なごやかな雰囲気で見聞交換をしている。
11 (6)	○ <b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	・前回の評価結果の懸案事項を町担当窓口と相談し、助言をいただき課題解決に取り組むことができています。	○ ・前回の評価内容の指摘により、町職員の助言をいただき、現在非常勤栄養士による献立作成、カロリー計算、調理のアドバイスなどをしてもらっている。
12	○ <b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	・新職員についてはまだ理解していない。今後勉強会を開き、必要な時に支援できる体制をとりたい。	○ ・定期ミーティング時に勉強会をもち、学ぶ機会をもちたい。
13	○ <b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・高齢者虐待防止関連法について改めて勉強会はないが、全職員は虐待防止に周知、徹底に努めている。これまでも虐待の事実は認められていない。	○ ・高齢者虐待防止関連法について勉強会をもち、再確認をしたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	○ <b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時には重要事項説明はもとより、丁寧に十分な資料に基づいて理解していただけるよう説明をしている。契約解除に至る場合は利用者やご家族に十分な説明と納得をもらい、安心して退居先に移られるよう支援している。	
15	○ <b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・職員は利用者が思いや不満を表出しやすいように働きかけ、それをミーティングで話し合い日々のケアに活かしている。	
16 (7)	○ <b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	・ご家族の来訪時や定期的なホームだよりの発行で、ホームでの生活状況、職員の移動などについて報告をしている。また他にも要望のある遠方の利用者家族には個別にメールで様子を知らせている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <u>情報開示要求への対応</u> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	○ <u>運営に関する家族等意見の反映</u> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	○	・第三者委員の選任については、検討中である。
19	○ <u>運営に関する職員意見の反映</u> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		
20 (9)	○ <u>柔軟な対応に向けた勤務調整</u> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	○ <u>職員の異動等による影響への配慮</u> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	○ <u>職員を育てる取り組み</u> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
23	○ <u>職員配置への取り組み</u> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	○ <u>同業者との交流を通じた向上</u> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	○	・相互の運営推進会議への出席のみならず、今後イベントなどにも案内し、交流を通じて日々のケアに活かしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・親睦会をもち、交流、親睦の場があり、気分転換を図れる機会となっている。
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<p><u>○本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>		
34	<p><u>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	○	<p>・ご家族が遠方にいる利用者には、本人自身に手紙を書いてもらうなどの支援をし、関係の継続に努めている。</p>
35	<p><u>○馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>		
36	<p><u>○利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>		
37	<p><u>○関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<p><u>○思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>		
39	<p><u>○これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>		
40	<p><u>○暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	○ <b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	・利用者の視点にたつてその人らしく生活できるように必要な支援を盛り込んだ介護計画を作成している。	
42 (17)	○ <b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	・基本的に3ヶ月ごとに見直しをし、現状に即した介護計画を作成、モニタリングをしている。状態が変化した場合は、期間終了前でも見直しをし、検討して再作成している。	
43	○ <b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・日々の生活の様子や本人の発した言葉は生活記録に、介護健康記録は医療記録としてそれぞれ個別にファイルしている。休日明けの出勤時には必ず申し送りや、記録で状態の変化など情報の共有を徹底している。	
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
44 (18)	○ <b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	・本人やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援をしている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	○ <b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	・本人の意向に応じて図書館へ出かけたり、地域のボランティアの方々の訪問や消防(避難)訓練の地域への協力を働きかけている。	
46	○ <b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	・地域のボランティアの訪問や小学生との交流などホームの機能は常時地域に開放している。	
47	○ <b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	・本人の意向や必要性に応じて訪問理美容サービスを利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○<u>地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p>○<u>かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p>○<u>認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p>○<u>看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p>○<u>早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p>○<u>重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p>○<u>重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p>○<u>住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	・利用者の自尊心を傷つけるような言葉かけや、職員側の視点での強制などないよう一人ひとりの尊厳を大切にされた対応を心がけている。また個人情報の取り扱いにも細心の注意を払い職員に周知徹底している。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	・日々の関わりの中でコミュニケーションをとり、本人が思いや希望を表出できるよう、自発性を呼びおこすような声かけをしている。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	・利用者一人ひとりのできること、できる可能性に着目しながら見守り、積極的に支援している。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・利用者の自分らしさを大切にされた介護を心がけ、職員側の決まりや都合を優先することなく、一人ひとりのペースを大切にされた個別ケアも支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	・その人らしい個性や好みは尊重し、欲しい洋服の買い物などの支援をしている。また理容、美容は近所のボランティアが来てくれるが、利用者の希望により本人の望む店に行けるよう支援している。	
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・日常的に利用者と職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	・現在飲酒や喫煙者はいない。10時、3時はおやつタイムで、時に利用者と職員と一緒に作るおやつは好評である。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	・排泄チェック表を用いて利用者の排泄パターンを把握し、声かけ誘導をしている。また個々の状態に応じた対応をしながら、排泄の自立を目指している。	

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>・夜勤者が一人のため夜間の入浴は対応できないが、利用者の希望を尊重しながら、午前、午後に入浴を楽しめるよう支援している。</p>		
65	<p><b>○安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>	<p>・一人ひとりの睡眠パターンを把握している。睡眠リズムの乱れは温かい飲み物を提供して入眠を誘ったり、安心して眠れるような声かけをするなどの支援をしている。</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<p><b>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>・個々の生活歴など過去の情報を本人や家族から伝えてもらい、ホームでの生活に楽しみや張り合いがもてるよう支援している。また楽しいと思うようなことを引き出せるよう努めている。</p>		
67	<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>・金銭管理が不可能な利用者がほとんどであり、現金を所持していないが、家族、本人の要望により力量のある利用者についてはお金を所持し、使えるようにして職員と一緒に金銭出納簿に記入している。</p>		
68 (26)	<p><b>○日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>	<p>・外出に好適な時期には、日常的に散歩やドライブに出かける機会が多い。また希望に添って個別にも対応している。</p>		
69	<p><b>○普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>	<p>・利用者の思いにより出身地域や、行ってみたいところにドライブに行ったり、また家族とともに出かけ、外食できる機会を支援している。</p>		
70	<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>・要望があれば、電話や手紙の利用を支援している。また必要に応じて個人情報に配慮しながら宛名書きなど代行している。</p>		
71	<p><b>○家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	<p>・馴染みの人たちがいつでも自由に訪問でき、交流できる雰囲気づくりを心がけている。</p>		
72	<p><b>○家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>	<p>・居室への宿泊の希望があるときは、家族の要望に応えられるよう適切に対応している。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	・年間行事の納涼祭には、地域の人々やご家族にも案内し、毎年多数の参加をいただき好評である。		
(4)安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	・全職員抑制や拘束を正しく理解している。向精神薬服用中の利用者もできるだけ必要以上の薬に依存せず、減らせる取り組みをしている。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	・鍵をかけることのデメリットは全職員理解はしている。2ユニット共有の玄関は構造上死角にあり、安全のため自由に出て行くことはできないが、本人が外に出たくなる様子が伺えたり、本人の要望があればその都度対応している。	○	・鍵をかけないことの取り組みに今後ミーティングでよく話し合い、日中の数時間から始めていくことを検討したい。
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	・日中は見守りできる位置で、さりげなく様子を把握し、居室で過ごしている利用者はプライバシーに配慮しながら、所在を確認している。また夜間も巡室し、様子の把握と安全の確認を心がけている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	・利用者の状況に合わせて、その都度注意の必要な物品は保管場所、保管方法を取り決めている。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	・インシデント、アクシデント報告書を作成し、再発防止のために今後の対応方法など検討している。また家族への事故の状況説明と報告をしている。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	・消防署の協力により、緊急時に対応できるよう救急蘇生法を習得している。また緊急時マニュアルにより手順化し、対応できるよう整備している。	○	・急変や事故発生時に備え、定期的な応急手当や救急蘇生法の勉強会をもちたい。
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	・インシデント、アクシデント報告書は職員間でいつでも閲覧でき、職員確認印により、共通理解を深めている。またミーティング時にも再確認し、再発防止のため改善策を話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	・消防署の協力により、消防(避難)訓練を通して、避難時の動き方、消火器の位置、非常口の確認の再確認をしている。地域の人にも声かけて協力を得ている。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	・起こり得るリスクについて、リスクの高い利用者家族については説明はしている。一人ひとり個別的に家族と折に触れ、対応策を話し合う必要がある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	・職員は日々一人ひとりの状態を把握しており、些細な体調の変化にも気づくように心がけ、記録し、情報を共有して対応している。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	・職員は薬の目的、副作用についてしっかり把握できている。また服薬時には職員が直接手渡し、服薬の確認をしている。必要な情報は記録に残し、医師、看護師と連携を図っている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	・散歩や適度なアクティビティで身体を動かしたり、水分補給や冷たい牛乳の摂取などで自然排便できるよう心がけている。また排泄管理表で排便チェックを行っている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	・口腔ケアの必要性を全職員は理解しており、一人ひとりの力に応じた歯みがきや義歯洗浄の声かけや介助の支援をしている。また食後には緑茶でのうがいをしている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・食事摂取量は毎食記録し、職員間で共有している。食事、おやつその他にも折に触れ水分量の確保に努めている。また食事は栄養士によるカロリー計算ができていて、食事量も個別に調整している。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	・日常的に食事、おやつ前の手洗いの励行している。また感染症マニュアルを作成し、全職員で予防、対策に努めている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	・調理用具や食器は除菌作用のある酸性水で衛生管理をし、食材搬入時には、その都度台所、冷蔵庫などの清掃をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	○ <u>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	・玄関周りには、プランターなどを置いて明るい雰囲気になるよう心がけている。	
91 (36)	○ <u>居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	・台所から調理の音や匂い、冬には掘り炬燵を囲むなど四季折々の五感に働きかける様々な刺激を採り入れた生活空間を大切にしている。また季節の花を飾り、季節感を楽しんでいる。	
92	○ <u>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・ベランダにベンチを置き、気の合った利用者同士で語ったりする居場所がある。また冬期間の掘炬燵はお気に入りの居場所で、居心地のいい空間になっている。	
93 (37)	○ <u>居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・居室には、使い慣れた目覚まし時計や写真などがあり、利用者に居心地のいい居室になっている。	
94	○ <u>換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	・季節感を大切にし、できるだけ外気温との差がないように配慮している。また利用者の体調にも合わせた温度調節にも気配りしている。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○ <u>身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。	・利用者が安全で自立した生活を送ることができるよう、ホール、浴室、トイレに手すりを、また玄関には椅子を設置して安全に靴が履き替えられるように配慮している。	
96	○ <u>わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	・利用者の居室入り口、風呂場、トイレには親しみのある絵札がかけられており、混乱や失敗を防ぐようにわかりやすく表示している。	
97	○ <u>建物の外周りや空間の活用</u> 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	・広い駐車場にはベンチを置き、日向ぼっこをしたり、散歩など安全に活動できる場所があり、くつろぎの場となっている。	

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	
98 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
99 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
100 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
101 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
102 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
103 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
104 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
105 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
106 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
107 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
108 職員は、活き活きと働いている。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
109 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
110 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	グループホームひまわり
所在地	山口県大島郡周防大島町小松開作143-25
電話番号	TEL 0820-74-1122
開設年月日	平成 15 年 2 月 17 日

## 【実施ユニットの概要】 (6月15日現在)

ユニットの名称	グループホームひまわり 西棟		
ユニットの定員	9 名		
ユニットの利用者数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
	要介護1	5	要介護4
	要介護2	4	要介護5
	要介護3		要支援2
年齢構成	平均 86.5 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	職員が評価項目をそれぞれ分担し検討、評価する。ミーティングで話し合い、今後の課題や改善点を明確なものとする。
評価確定日	平成 20 年 6 月 23 日

## 【サービスの特徴】

利用者の方々の尊厳を大切にしたい、心のかもったサービスを提供します。その人らしさを尊重し、日々幸せに、そして穏やかに過ごせるよう支援します。「みんなで幸せになりましょう」を理念に掲げ目標にしています。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	○ <b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	○ <b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ <b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ <b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ <b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	○ <b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえよう日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	○ <b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	○	今後できるだけ町内会の活動に積極的に参加していきたい。
8	○ <b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
9	<p><b>○評価の意義の理解と活用</b>            運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
10 (5)	<p><b>○運営推進会議を活かした取り組み</b>            運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>		
11 (6)	<p><b>○市町との連携</b>            事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
12	<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b>            管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。</p>	○	定期ミーティング時に勉強会をもち、学ぶ機会をもちたい。
13	<p><b>○虐待の防止の徹底</b>            管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	○	高齢者虐待防止関連法について勉強会をもち、再確認をしたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
14	<p><b>○契約に関する説明と納得</b>            契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p><b>○運営に関する利用者意見の反映</b>            利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16 (7)	<p><b>○家族等への報告</b>            事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ <b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	家族来訪時には、日々の記録やケアプランなどをみていただき情報公開している。情報開示には誠意をもって応じている。		
18 (8)	○ <b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情受付窓口、担当者、外部機関を明示し、苦情処理の、手続きを明確に定めている。		
19	○ <b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングで意見、要望を聞くようにしている。また、日頃から職員とコミュニケーションを図り、悩みやストレスの解消にその都度話しを聞き、相談にのっている。		
20 (9)	○ <b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の生活の流れに応じた適切な職員配置をとっている。		
21 (10)	○ <b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者、ご家族の信頼関係を築くためにも馴染みの職員の対応が大切だと考えている。やむを得ない異動、離職時には利用者へ最善の努力をし、配慮を心がけている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
22 (11)	○ <b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	できるだけ研修の機会を設けている。研修後はレポートを提出して、ミーティングの際発表をし、共通理解と介護技術が向上していけるよう場を設けている。		
23	○ <b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員は多様な資質を持った職員を配置している。		
24 (12)	○ <b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他グループホームの運営推進会議に出席させていただき、交流をもちながらサービスの資質の向上に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p><b>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</b>            運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	○	<p>職員の信頼関係の構築を図り、親睦会などを設けている。</p>
26	<p><b>○向上心を持って働き続けるための取り組み</b>            運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p><b>○職員の業務に対する適切な評価</b>            運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		
<p><b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p>			
<p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
29	<p><b>○初期に築く家族との信頼関係</b>            相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>		
30	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b>            相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>		
31 (13)	<p><b>○馴染みながらのサービス利用</b>            本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32 (14)	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b>            職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		

### Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1. 一人ひとりの把握

38 (15)	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
41 (16)	<b>〇チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族が来訪時、利用者の様子や状態を伝え、家族の要望や意見を採り入れ、毎月一回各ユニット職員全員参加でケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
42 (17)	<b>〇現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	利用者の状況を直接または、申し送りなどで間接的に報告を受け、家族の意見を聞き現状に即した、新たな計画を作成している。	
43	<b>〇個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の生活の様子や本人の発した言葉は生活記録に、介護健康記録は医療記録としてそれぞれ個別にファイルしている。休日明けの出勤時には必ず申し送りや、記録で状態の変化など情報の共有を徹底している。	
44 (18)	<b>〇事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況や要望に応じて柔軟な支援をしている。	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
45	<b>〇地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	利用者が個々の希望や特性に応じて町内会等地域行事に参加できるよう配慮している。	
46	<b>〇事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	ホームの機能は常時地域に解放している。	
47	<b>〇他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	本人の意向や必要性に応じて訪問理美容サービスを利用している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p><u>〇地域包括支援センターとの協働</u> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><u>〇かかりつけ医の受診支援</u> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><u>〇認知症の専門医等の受診支援</u> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
51	<p><u>〇看護職との協働</u> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><u>〇早期退院に向けた医療機関との協働</u> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><u>〇重度化や終末期に向けた方針の共有</u> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
54	<p><u>〇重度化や終末期に向けたチームでの支援</u> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		
55	<p><u>〇住み替え時の協働によるダメージの防止</u> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ <u>プライバシーの確保の徹底</u> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の自尊心を傷つけるような言葉かけや、職員側の視点での強制などないよう一人ひとりの尊厳を大切にされた対応を心がけている。又個人情報の取り扱いにも注意している。	
57	○ <u>利用者の希望の表出や自己決定の支援</u> 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	日々の関わりの中でコミュニケーションをとり本人が思いや希望を表出できるよう、自発性をよびおこすような声かけをしている。	
58	○ <u>“できる力”を大切にされた家事への支援</u> 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	調理、食後の片付け、配膳等、活躍できる場面作りをして利用者のできる力を大切にしながら支援している。	
59 (22)	○ <u>日々のその人らしい暮らし</u> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	諸活動をできるだけ、自分一人でするように支援し、その人らしさを大切にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ <u>身だしなみやおしゃれの支援</u> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	地域の理美容院に家族が連れて行っている人がいたり、訪問理美容院の専門家との連携を取り、おしゃれができるように支援している。	○ 訪問理美容師の専門家との連携をとっている。
61 (23)	○ <u>食事を楽しむことのできる支援</u> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている。	
62	○ <u>本人の嗜好の支援</u> 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	現在の入居者には喫煙者はいない。嗜好のものは一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	
63	○ <u>気持ちのよい排泄の支援</u> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを把握し、声掛けや誘導をしてトイレでの排泄を促している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	○	バイタルチェックや様子観察で入浴の可否を判断している。
65	<p><b>○安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
66 (25)	<p><b>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>		
67	<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>		
68 (26)	<p><b>○日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
69	<p><b>○普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
70	<p><b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
71	<p><b>○家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
72	<p><b>○家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	<p><b>○家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。</p>		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>			
74 (27)	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。</p>		
75 (28)	<p><b>○鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>	○	鍵をかけない取り組みに今後ミーティングでよく話し合い、日中の数時間から始めていくことを検討したい。
76	<p><b>○利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>		
77	<p><b>○注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>		
78 (29)	<p><b>○事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>		
79 (30)	<p><b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>		
80	<p><b>○再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	<p><b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>		
82	<p><b>○リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。</p>		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
83	<p><b>○体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
84 (32)	<p><b>○服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。</p>		
85	<p><b>○便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>		
86 (33)	<p><b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。</p>		
87 (34)	<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
88 (35)	<p><b>○感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。</p>		
89	<p><b>○食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	〇印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
90	<p>〇安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
91 (36)	<p>〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>		
92	<p>〇共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
93 (37)	<p>〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
94	<p>〇換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<p>〇身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>		
96	<p>〇わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
97	<p>〇建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		